

# 航空利用の概況

## 長崎空港利用者数の推移

(単位:人)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
国内線	2,878,834	3,001,915	2,906,428	3,049,261	3,145,370
国際(定期)線	72,751	39,382	35,003	51,882	66,356
国際チャーター便	3,301	10,134	430	1,408	1,859
乳幼児	53,811	56,187	54,858	55,891	55,902
計	3,008,697	3,107,618	2,996,719	3,158,442	3,269,487

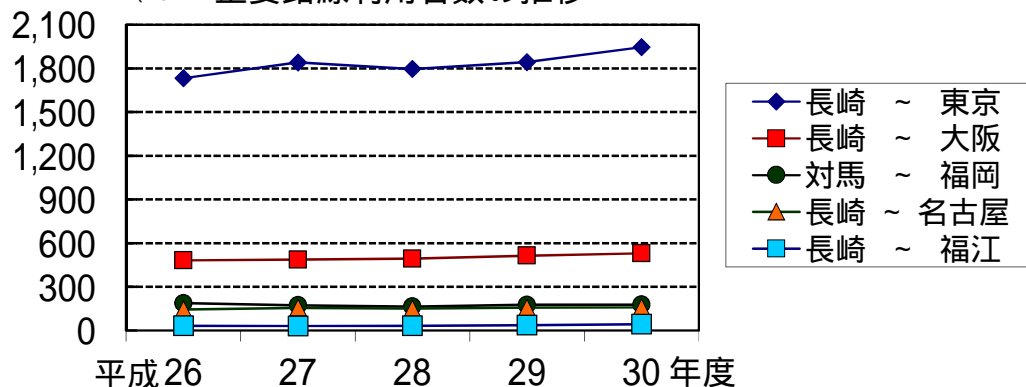
## 主要路線利用者数の推移

(単位:人)

区分	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
長崎～東京	1,732,597	1,841,370	1,796,097	1,842,905	1,946,200
長崎～大阪	481,429	486,135	493,237	513,746	529,728
対馬～福岡	187,813	173,591	164,021	176,687	177,486
長崎～名古屋	144,555	155,208	149,442	156,930	158,651
長崎～福江	32,260	30,466	32,552	37,201	43,050

注) 路線別利用者数に乳幼児は含まない。

(千人主要路線利用者数の推移)



本県における航空の歴史は、昭和35年4月、大村空港を国管理空港(旧第二種空港)として供用開始したことに始まり、昭和50年には世界初の本格的な海上空港「長崎空港」として生まれ変わり、さらに昭和55年には滑走路が2,500mから3,000mに延長された。県内には長崎空港のほか、五島つばき空港、壱岐空港、対馬やまねこ空港の4空港に定期便が就航しており、全国の主要都市をはじめ本土と離島とを結ぶ航空網を形成している。

長崎空港は本県の空の玄関として、国内線は東京(羽田、成田)、大阪(伊丹、神戸、関西)、名古屋(中部)、沖縄、県内離島の10路線38便、国際線は上海(浦東)・香港の2路線週5便となっている。平成30年度の利用者数は3,269千人<内訳:国内線(チャーター便含む)3,145千人、国際線(チャーター便含む)68千人、乳幼児56千人>であり、長崎空港開港以来、過去最高となる利用者数であった。

また、離島の空港は、五島つばき空港と対馬やまねこ空港は長崎と福岡、壱岐空港は長崎と結ばれており、平成30年度の利用者数は453千人で、生活路線としての役割を果たしている。

路線数及び便数は令和元年12月1日現在の数字。

(県新幹線・総合交通対策課)